間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査

資料名	
調査主体	知床財団、斜里町、羅臼町
評価項目	6. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと
管理目標	管理計画の目標は「近代的な開拓が始まる前（明治以前）の生態系」の状態であるが、具体的な資料存在しない。従って、資料が存在する直近の状態である知床半島自然生態系総合調査（1979～1980年）時点の個体群レベルを目標とする。
モニタリング項目	エゾシカの生息状況の把握
評価指標	間引き個体、自然死個体などの生物学的特性（密度の変化に対する個体群の質的变化をモニタリング）
評価基準	

<平成20年度の具体的調査手法>

調査はシカ年度単位で実施

自然死亡数の把握

越冬地	調査実施主体	調査時期
知床岬	知床財団	春期
ルサ相泊	羅臼町	冬期～春期
幌別・岩尾別	斜里町	冬期～春期
ウトロ・真鯉	斜里町	冬期～春期

間引き個体の妊娠率調査

知床岬での密度操作実験により捕獲した個体について、妊娠率を調査した。

<平成20年度の具体的調査データ>

自然死亡数の把握

平成21年春、知床岬では2体（メス成1、不明成1）、岩尾別・幌別では0歳3体、ウトロ・真鯉0体、ルサ相泊0体であった。斜里側（岩尾別～真鯉）では他にクマ捕殺2体（メス成2）、死因不明4体（メス成2、0歳2）があった。

間引き個体の妊娠率調査

調査したメス成獣62頭中（4～5月捕獲分）61頭に胎子を確認した。胎子が確認できなかった個体は1頭のみ（3歳）であり、妊娠率は98%であった。なお、調査個体に1歳はいなかった。

<コメント>

1980年の100メスあたりの出生数は43.8（知床半島自然生態系総合調査報告書（動物編）.1981）であった。

<評価>

自然死亡数は比較的少なかった。